

平成27年度青森県原子力防災訓練

—原子力防災体制を確認—



10月27日、青森県・関係市町村の共催により、東北電力(株)東通原子力発電所1号機を対象に、原子力防災体制の確立、防災関係機関の緊急時対応能力の向上を図ることを目的とし、92機関、2261名(住民参加者を含む)が参加し、原子力防災訓練が実施されました。

村では、地震・津波による大規模災害と原子力災害の複合災害を想定し、防災センター内に村災害対策本部を設置し、災害対策本部会議を開催して、各種対策の検討を行い、青森県災害対策本部との通信連絡や情報の共有化、そして、国、県、関係市町村、事業者によるTV会議を行いました。

また、防災無線、広報車、電話、FAX等により、住民や村内の学校、医療福祉施設を対象に、避難指示等の伝達訓練も行いました。医療福祉施設(村内6施設)では、利用者や職員等合計228名が参加し、施設内での情報伝達や屋内避難の方法を確認していただきました。

さらに、住民が参加し、陸路および空路による避難訓練を実施しました。

「陸路避難訓練」では、小田野沢、老部、白糠地区を対象に、72名が各地区の一時集合場所から、バスにより、青森市へ避難しました。

「空路避難訓練」では、上田屋、下田屋、石蔵平、一里小屋、豊栄地区を対象に、約10名がヘリにより青森市へ避難しました。

避難先(新青森県総合運動公園)では、県などの関係機関が、体の表面に放射性物質が付着していないか確認する汚染検査などが行われました。

その後、参加者は福島大学の天野客員准教授の東日本大震災での実際の避難対応に基づく講演会を受講しました。

この他にも、防災関係機関等が様々な項目の訓練を実施しています。

訓練にご参加いただいた住民の皆さんは原子力災害が発生した際の行動等を確認しながら、真剣に取り組んでいました。

村としては、原子力防災対策に万全を期すため、今後も定期的な訓練を実施していきます。

ご協力ありがとうございました。

災害対策本部設置運営訓練



TV会議



災害対策本部会議



状況整理と対策の検討



TV会議映像



対策を指示する本部長



関係機関との通信連絡